

秋の風に枯れ葉が舞い散り、地面の上は葉っぱのじゅうたんになっています。その葉っぱを子どもたちは、宝物のように一枚一枚大切に拾い集めています。この感性がすばらしいですね。子どもにとって、身の回りにある自然物はほとんどといっていいほど宝物です。ダンゴ虫、みみず、落ち葉、どんぐり、砂に交じっている貝殻の破片や光る小石！ 好奇心を駆り立てられます。

この好奇心がとても大切です。「これはなんだろう？」「どうなっているのかな？」などなど。こたえはわかっているけれど、大人も一緒に考え、子どもたちに答えを導いてもらいます。子どもなりに答えがでると、うれしいものです。そしてその経験が“探究心”を芽生えさせてくれるのではないかと思います。



「火事です！避難してください」火災訓練と不審者侵入訓練

月に一度、避難訓練を行っています。今月は事務室から出火の想定。園内放送の後、園庭の東側(お宮さんの前)に逃げ出します。ふざける子もなく、口に手をあて真剣に避難。2階の小さいクラスの子どもたちも職員に抱きかかえられ園庭に。避難車(散歩車)も準備され、子どもたちを乗せて避難。泣く子もなく無事避難完了。そのあとは、もも、ふじ、ばら組さんだけで「不審者対応」の練習。まずは、“知らない人に声を掛けられてもついていけないこと”。園庭内での対応は、園舎の中に逃げていくことを伝えました。



ささやま幼年消防隊 出動！！



11月9日～15日は『秋の全国火災予防運動週間』です。啓発活動の一環で11月9日(月)“篠山保育園幼年消防クラブ”が防火パレードを行います。これは、ふじ組、ばら組の子どもたちで組織していますが、今回は新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、ばら組だけの参加になります。当日は、消防車を先頭に法被姿で拍子木を打ちながら火災予防を呼びかけます。第一分団のポンプ車、消防本署より消防隊のみなさんが参加します。保育園出発(13:00)→医大通り→市役所からJR久留米駅方面→中央町問屋街→市役所→裁判所通り→園到着(13:45)とまわります。お時間がありましたら、応援の声かけをお願いします。



ささやまっこだより

11月の行事予定表

- 2日(月)～6日(金)保育参観(すみれ組)
- 4日(水) ばら組山登り(ばら組のみお弁当)
- 9日(月) 防火パレード(ばら組)13時出発
- 11日(水) 剣道教室(ばら組)
- 19日(木) 避難訓練
- 21日(土) 園内研究会
- 25日(水) 誕生会
- 16日 … えいごであそぼう(ふじ組)
- 9日、30日 … えいごであそぼう(ばら組)

お知らせ 本園には特に衣替えはありませんので、登降園時の服装は、各自の判断をお願いします。(長袖ポロシャツ、トレーナーも着用してもらって結構です)

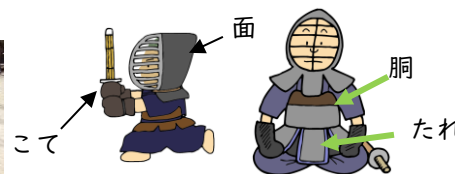
おなかを みせてくださ〜い!(内科健診)

10月8日に嘱託医の本間先生による、第2回内科健診が行われました。健診の結果、特に心配がある診断の子はいませんでした。



“なんだか 動きにくい” 防具をつけての剣道教室

年長ばら組さんの剣道教室では、いよいよ“防具”をつけての練習に入りました。ばら組さんも初めての経験のため早く付けたくてうきうきしていました。ところが、たれを巻き、胴を付け、面をかぶり、こてを付けたらほぼロボット状態。竹刀を握るのも一苦勞。想像していたのとはちょっと違ったようです。はじめはみんなこのような感じでした。練習を積み重ねていくうちに、このストレスも少しずつ感じなくなっていくようです。



令和2年 11月 2日
篠山保育園 園長 足立善一郎

朝の“あいさつ”について考える!

一日の始まり、朝登園してきて顔を見合わせた時「せんせいおはよう！」とあいさつされると、とてもいい気持ちになります。もちろん「おはようございます。」と丁寧に言ってくれても同じです。職員もそれにこたえてあいさつをします。「今日も元気に来てくれてうれしいよ」という想いです。これが、自然のあいさつの流れだと思のですが、職員から疑問が上がりました。子どもたちの姿を見ていると、『朝最初に顔を合わせた人にはあいさつをせず、保育室に入って担任と一対一で向き合ったときに初めてあいさつをするのは何故なんだろう?』という疑問です。もちろん一対一で向き合ってあいさつをすることは大切ですし、“儀式的挨拶”は“あいさつ”を知る段階(1～2歳児)で必要だとは思いますが、それがあまりにも儀式化してしまっていて、会った人に自然にあいさつするという意識が育っていないように見える子どもたちの姿が、職員には少し心配な姿に映るということでした。

“あいさつ”の意義に関しては「礼儀だから」と言われることがあります。もちろん礼儀・マナーの領域においてもあいさつは重要ですが、私たち篠山保育園では、あいさつが子どもたちの成長に大きなパワーを与えてくれていると考えています。「おはよう」と声を出してあいさつをして、大人からも「おはよう」とあいさつをされたら、子どもはそのあいさつが受け入れられたと感じ、普段の生活の中でも「せんせい、おなか痛い」や友だちに「おもちゃを貸して」と言うことができやすくなると思います。日々保育にかかわる者として、あいさつができるようになった子は、必ず自分の意見も発信できるようになると実感しているからです。

もちろん、あいさつは子どもだけの問題ではなく、私たち大人の振る舞いも大切だと思います。保育園では担任と子どもたちで“あいさつの意味”について話をしています。ご家庭でもあいさつについてお話できる時間を作っていただければ幸いです。

